eS4 エスフォー

EUROMOTIVE MAGAZINE

66

2017 JANUARY

刺激的でセンス溢れる
ユーロスタイルを提案します

GEIBUN MOOK

2017スペシャルカレンダー

[リアル海外リポート]

アメリカ&ドイツの最新トレンドを斬る!

SEMA & ESSEN

H2O INTERNATIONAL, AWE TUNING, APR

Big shot in euro tuning

[ヴィッセル神戸]小川慶治朗

×

メルセデス・ベンツML

×

ハイパーフォージドHF-LC5

[厳選モディファイド]

やっぱりアウディが好き

A6アバント／RSQ3

色気と食い気のBMW

M3／M4クーペ

VWを楽しみ尽くす

up!／ゴルフ7.5 GTIクラブスポーツ

RUN DEVILS RUN

ユーロの速いヤツ

MINI JCW／ボルボV40

AUDI R8 V10 EXCLUSIVE

[TOP ISSUE]

SUPER SPORT & EXOTICS

憧れの頂点モディファイド!

スーパースポーツ&エキゾチックス

フェラーリ488スパイダー／メルセデスAMG GTS／アウディR8スパイダー
アウディR8／ランボルギーニ アヴェンタドール LP750-4 スーパーヴェローチェ

感性と技術で仕立てたオートクチュール

4.2ℓ V8 エンジンで最高出力420ps、最大トルク43.8kg-m、最高速では300km/h を超え、2ペダル MT「Rトロニック」にクワトロシステムという、アウディが誇る技術を取り込んだミッドシップ・スーパースポーツ R8。日本での発表は 2007 年と、かれこれ 10 年近く前になるんだけど、その存在感は今も健在。上位グレードとして、その後 5.2ℓ V10 エンジンもラインナップされるものの、V8 エンジンのほうが日本の道路事情ではリニアに操れるのだとか。なによりミッドシップレイアウトによりキャビンの後ろから響くエキゾーストノートは、フェラーリやランボのように過激ではなく、アウディらしい控えめなサウンドで、街中の景色にもしっくり馴染むスーパースポーツなのである。

そんな R8 にさらなる迫力を加えたいと考えたオーナーがセレクトしたのが、ドイツのアウディ /VW チューナー・レグーラチューニングのボディキット。アウディのシングルフレームをモチーフに、アグレッシブなスタイルに仕立てるチューナーとして、ヨーロッパで人気が上がってきているブランドである。

「日本でほとんど見かけないことと、ダクトを多用したデザインが気に入ったようなんですが、いざ装着してみると思っていた以上にレーシーなスタイルに。そこで、オーナーと相談しながら、各部を煮詰めていきました」（ティーズクラブ / 瀧井代表）。

まず手をつけたのが、ともすると多すぎるダクトのスムージングとネットの交換。ネットは目の細かいゴム製ラバーに交換することで、光を受けたときの質感をアップ! ヘッドライト下の開口部にあったダクトには、アウディ Q7 S ラインのデイライトをコンバート。もともとあったと思わせるほどの自然なマッチングで、巧みにフェイスの押し出し感を高めていた。リアウイングまでつながったリアバンパーは、テールランプ下のラインでカット。そこに R8 純正のパネルを戻し、ロェンのリアウイングによるブランドミックスをスッキリ仕立てているところがさすがである。

クオリティを決定する重要な部分に大胆なワンオフを投入するティーズクラブ。R8 という格好の素材だからこそ分かる、その感性とカスタム技術の高さに脱帽した。

SPECIFICATIONS

AUDI R8 4.2 FSI QUATTRO 2009

WHEEL HYPER FORGED >>
LC5 F:20×9.0J R:21×11.0J
TIRE CONTINENTAL >>
CONTI SUPER CONTACT
F:245/30ZR20 R:295/25ZR30
SUSPENSION KW >> Ver.3 HLS
MUFFLER macars >> One-OFF Inconel
EXTERIOR Regula Tuning >>
Front Bamper(Smoothing & Net Exchange)/
Side Spoiler/Rear Bumper,
Rowen >> Trunk Spoiler,
AUDI >> GT Tail Lens/Q7 Daylight
Wrapping >> Carbon Film

R8 は紛れもないスーパースポーツなんだけど、強すぎない存在感で街中でも自然に溶け込んでしまう。しかし、アクセルを踏み込んだ瞬間、それまでの景色がガラリと変わる。

[TOP ISSUE]
SUPER SPORT & EXOTICS
+ + +

AUDI R8 4.2 FSI QUATTRO

R8の新解釈

CALL >> T's CLUB（ティーズクラブ）[079]437-9224 www.ts-club.com/
PHOTO >> KEN SHIRATANI（白谷 賢）
TEXT >> AKIRA OKAMOTO（岡本 晃/オフィスアヘッド）

1 両サイドのメッシュ上部には、もともとダクトを備えていたが、そこに Q7 S ラインのデイライトを取り付け、ネットをゴム製のラバーネットに変更している。2 メッシュ張りしたダクトを採用するレグーラチューニングのサイドステップ。ドア後ろのパネルは、ワンオフでカーボン調フィルムを張り、サイドビューにメリハリを加えている。3 両サイドに備えられたフェンダーダクト、ボトムのディフューザー、マフラー出口など、レーシーなディテールが凝縮したレグーラチューニングのリアバンパー。4 レグーラチューニングのリアバンパーはウイングまでつながる構造なのだが、そこをあえてカットし、純正パネルとロェンのトランクスポイラーを装着している。5 エキゾーストシステムは、姫路のメイカーズでワンオフしたもの。インコネルを使い、テール部は青く焼けている。可変バルブ付きで、V8 スポーティサウンドを存分に味わえる。6 上質さとスポーティさを併せ持つハイパーフォージド LC5 をマウント。フロント 20×9.0J、リア 21×11.0J を選択。サスペンションに KW Ver.3 HLS を採用している。

オーナーが探してきたというレグーラチューニングのボディキットを装着。シングルフレームをモチーフにしたデザインを採用し、迫力満点なスタイリングに仕立てる。

1

2

3

4

5

6

SPECIFICATIONS_AUDI A6 SEDAN 2.8q S-LINE 2013

WHEEL HYPER FORGED>>HF-LC5（DeepConcave）F&R:20×9.5J　Finish: Brushed Color Clear（Tinted Gloss）Disk, Titan Gray Anodized（Gloss）Outer, Matt Black Inner,Black 12Point Pierce
TIRE NITTO>>INVO　F&R:255/30-21
BRAKE F:STOPTECH>>Trophy Kit　380mm×32mm Rotor & 6Piston Caliper　6piston R:DIXCEL>>Slit Rotor
SUSPENSION KW>>Ver.2 Adjustable Co:lover
EXTERIOR AUDI OE>>S-LINE, TailLight DarkTint, Window moldings Black-out, Smart Dynamic Winker

AUDI A6 SEDAN 2.8QUATTRO S-LINE

都会の風景に違和感なく溶け込むスタイリッシュフォルム

OWNER>>玉木サン　CALL>>5x（ファイブエックス）[049]227-2555 www.5-x.jp　PHOTO>>MAKOTO INOUE（井上　誠）　TEXT>>KAZUNARI IWATA（岩田一成）

最小限の手数でハイセンスにコーディネート

フォーマルシーンに見合った品格と、ストレスなくロングドライブが楽しめる快適性、欧州車らしいスポーティーな走り。アウディA6は、そのすべてを兼ね備えたオールラウンドプレーヤー的な性格を持つ。ここで紹介するのは、そんなA6本来の資質を最大限にブラッシュアップした、ツボを押さえたシンプルなモディファイが光る1台だ。

ボディカラーは、純正色のミトスブラックメタリック。ブラック系のベース車両に手を加えると「いかついイメージ」になりがちだが、このA6は「都心の高級ホテルのエントランスにスマートに乗りつけられる」ような“スタイリッシュなイメージ”をコンセプトにモディファイされている。

ボディはKWバージョン2で約60㎜のローダウンを施し、足元にはハイパーフォージドのLC5ホイール（F&R:20×9.5J）をマウント。オーナーは以前にもA6（4F）に乗っており、その時に履いていたLC5が大のお気に入りだったそう。そこで「ファイブエックス」と相談し、ホイールに再びLC5をセレクト。ディスクにブラッシュドカラークリア、アウターリムにチタングレーアルマイトをマッチングした別注フィニッシュで、既存モデルとは一線を画すスタイリッシュな味付けとした。

フロントブレーキは、ストップテックのトロフィーキットにコンバート。リア純正キャリパーはオリジナルカラーでペイントされ、フロントのツインスポークから覗くアルミ削り出し6ポットキャリパーと絶妙にコーディネートしている。後期モデルのダークテールをモチーフに、キャンディスモーククリアペイントでテールライトをダークティントしたのをはじめ、ウインドーモールをブラックアウトしてブラックスタイリングパッケージを再現するなど、ディテールのフィニッシュも秀逸！

手数を最小限に抑えつつ、トータルバランス抜群のスタイリッシュフォルムを演出した、「ファイブエックス流」のハイセンスが光る1台だ。

足回りにはKWバージョン2をセットして約60㎜のローダウンを敢行。ホイールとのバランスを考慮した絶妙なスタイリングとした。

写真上／足長感が際立つ細身のツインスポーク形状が特徴のハイパーフォージドLC5（F&R:20×9.5J）。「ブレーキが映えるように」と、ブラッシュドカラークリアディスク&チタングレーアルマイトリムの別注フィニッシュを採用した。
写真左／純正テールランプはキャンディスモーククリアでペイントされている。

純正のメッキウインドーモールはブラックでペイント済み。ブラックスタイリングパッケージを再現し、ボディの印象を引き締めた。

フロントブレーキは、ストップテックのトロフィーキットに換装。アルミ削り出しの6ポットキャリパーで、ストッピングパワーの強化と迫力のビジュアルを同時にゲットした。リアの純正キャリパーはフロントキャリパーに合わせて調色したオリジナルカラーでペイントされ、ディクセルのスリットローターをマッチング。